飯能市立博物館

トカゲとカナヘビはどう違う？

本橋 綾香

爬虫類の中でも、人家の近くなど身近な場所でも見ることのできるトカゲとカナヘビ。埼玉県に生息するのは、トカゲ科のヒガシニホントカゲとカナヘビ科のニホンカナヘビです。全国に広く生息していますが、都市化が進んだ結果、個体数が少なくなっている地域もあります。ヒガシニホントカゲは、以前はニホントカゲと言われていましたが、西日本に生息する個体との遺伝子などの違いから、平成 24(2012)年に新種として名前がつきました。

写真 1 ヒガシニホントカゲ

写真 2 ニホンカナヘビ

写真 3 尾が再生したニホンカナヘビ

どちらも昼間に行動し、主に昆虫やクモを食べ、寒さが厳しくなると地面や石の下で冬眠します。成体のヒガシニホントカゲとニホンカナヘビは地味な茶色で、違いがよく分からないかもしれません。ヒガシニホントカゲは、幼体から成体を通して滑らかで光沢があり、体に沿って黒い縞模様が入ります(写真 1)。一方、ニホンカナヘビはつやがなくカサカサとした鱗で、体の横に白っぽい縞模様が入ることが多くあります。また、尾は体に対して 3 分の 2 以上と長く、草地で行動することから草の上でバランスをとりやすくなっています(写真 2)。

どちらも卵を産みますが、その数や期間、産卵後の行動に違いがあります。ヒガシニホントカゲは地面に穴をほり、5-6 月に卵を 10 個前後産みます。卵が孵るまでの約一ヵ月もの間、メスがつきっきりで世話をし、卵が孵ってからしばらくの間も、幼体のそばについています。一方、ニホンカナヘビは 3-9 月に複数回、草の根元などに 5 個前後の卵を産みますが、親が卵の世話をすることはありません。

ヒガシニホントカゲは、成長段階などに応じて色や模様に違いがあります。生まれたばかりの幼体は、尾が鮮やかな青色です。トカゲの仲間の多くは、危険が迫った際に尾が勝手に切れる「自切」をすることが知られています(写真③)。切れた尾はしばらく動き回ることで敵の注意を引きつけ、その間に逃げることができます。ヒガシニホントカゲの幼体は尾が特に目立つため、よりいっそう敵の注意を引き付けることができます。一方、ニホンカナヘビは幼体のころもあまり色が違いません。さらにヒガシニホントカゲのオスは、繁殖期を迎えると首の辺りが赤く色づき、頬ががっしりと角ばってきます。オス同士の激しい闘争に向けて、顎の力を強くするためです。

幼体が派手な尾を持ち、卵を大事に育てるヒガシニホントカゲ、幼体のころから地味で、卵は産みっぱなしでも複数回産卵するニホンカナヘビ。見た目は似ている両者ですが、その生き方は異なります。